

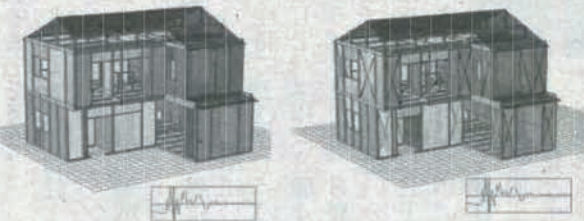
# ウォールスタットで耐震アピールを

## 直結I/Fでプレカットデータ活用 ネットイーグル

ネットイーグル（福岡市、祖父江久好社長）は、金物工法推進協議会が推進するウォールスタットによる接合部強度の「見える化」こそが金物工法の

昨秋には、①プレカ

優位性をアピールする最良の手段と捉え、協議会の要望を受けて開発したウォールスタットとプレカットCADの直結インターフェース（I/F）「ウォールスタット解析データ直結オプション」の普及、改良に力を入れている。



金物工法（左）と在来工法で揺れ方の違いを比較できる

ットCADでの耐力壁（面材）入力②接合部ごとの詳細パラメータ出力③金物2個使いの接合部パラメータ出力④基礎拘束フラグの出力⑤台形耐力壁の出力⑥端末間のウォールスタットデータ受け渡し改善の6項目の機能を追加した。例えば、従来は金物1種類について1つしか出力できなかった金物のパラメータ（耐力）を、接合部の条件によって複数のパラメータから自動で選択できるようにしたほか、2個使いの場合、それぞれ別の金物を個別に出し、耐震性能見える化協会（父江社長）が、

た。金物はウォールスタット情報交換サポートサイトで提供されている金物工法すべてに対応している。

祖父江社長は「金物工法の特徴は、仕口金物の緊結強度が高いこと、個別の強度が金物メーカーから明確に提示されていること、構造用集材材を使用する金物工法で土台や小屋組みが在来工法の物件などでもシミュレーションできる。

「ウォールスタットはバージョン5で計算時間が各段に短縮され、ますます活用が広がっていく」（祖父江社長）。